

令和 7 年度 学校経営計画

1 学校教育目標

一人一人に応じた健康の回復を目指し、自己教育力の育成を図るとともに、進んで社会参加できる児童生徒の育成に努める。

＜校 訓＞ 『 明朗 克服 協力 』

2 学校の特徴

- ・在籍する児童生徒のほとんどは、隣接するNHO富山病院に入院して治療を受けており、常に病院と密接に連携した教育を実施している。
- ・児童生徒一人一人の実態を的確に把握し、障害や病気の状態に応じた個別の教育支援計画及び個別の指導計画を活用することで、個に応じた指導の充実に努めている。また、他機関との連携を推進している。
- ・病気の状態や障害の特性等を考慮し、ICT機器を積極的に利活用し、基礎・基本の定着と個性の伸長に努めている。
- ・学校行事や体験学習を通して、豊かな知性と情操を育むとともに、集団の中で協力し合える豊かな社会性を育成するため、他学部・他学年との合同学習や行事等を通じた交流の機会を設定している。
- ・年度途中で児童生徒の転出入が多いため、前籍校や転出校との緻密な情報共有を図っている。

3 学校の現状と課題

- ・小・中・高等部では、慢性疾患の児童生徒が著しく減少し、心身症や適応障害等の精神的な疾患を抱える児童生徒が大多数を占めている。前籍校では、不登校や保健室登校を経験していることが多く、それにより基礎学力や基本的な体力、対人関係能力、コミュニケーション能力等に様々な課題を抱えている。また、在学中の多くの時間を病院で過ごすため、社会経験が不足しがちであり、人間としての調和のとれた育成を目指す指導が重要となっている。
- ・訪問教育の児童生徒については、病状の多様化や障害の重度・重複化がすすみ、常時高度な医療的ケアを必要とするケースが増加してきている。このため、学習時間や学習場所、使用できる教材教具等に多くの制限がある。さらに入院生活が長期にわたることで、関わる人が家族、医療関係者、教職員等に限られ、同年代の児童生徒との関りが少ないという課題がある。
- ・学校生活における児童生徒の安全・安心の確保のためには、既存の緊急時対応マニュアルの見直しや、新たな状況に対応した緊急時マニュアルの整備、教職員の緊急対応訓練の実施の必要性が求められている。
- ・病弱の児童生徒は、病状の変化により登校して授業を受けることが困難になる場合があるため、自宅や病室と学校をつなぐオンライン授業の充実が必要である。そのためには、ICT機器を活用した授業を展開できるよう、教職員のスキル向上が不可欠である。

4 学校教育計画

項 目			目標・方針及び計画
1	学習活動 重点 1	小学部	目標 ○基本的生活習慣を身に付け、基礎学力の定着を図るとともに、生き生きと活動できる児童を育成する。
			計画 ○児童一人ひとりに応じた学習目標を設定し、学習内容の工夫や I C T 機器の活用により、意欲的に学習へ取り組める環境を整える。 ○多様な学習活動や学校行事を通して児童の主体性を育み、成就感や自己肯定感を高める。
		中学部	目標 ○基礎学力の向上と学習習慣の定着を図り、自己実現に向けて学習に取り組む意欲と力を育成する。
			計画 <u>○学習空白の補填や学力向上を目指し、個に応じた学習目標と学習計画を立てて指導を行う。</u> ○病院との連携により安定した登校を支援し、学習活動や行事への参加を通じて達成感や自尊感情を育てる。
		高等部	目標 ○自立と社会参加に向けて課題を見出し、自ら課題に主体的に取り組む力を育成する。
			計画 ○生徒の実態や希望に応じた目標を設定し、学力向上、資格取得、技能習得、体力向上などに意欲的に取り組めるよう支援する。 ○学習活動や行事の係活動などを通じて、責任感と集団活動への主体性を養う。
		訪問教育	目標 ○保持している感覚機能や身体機能を維持し、周囲の人や物と関わろうとする意欲を育成する。
			計画 ○様々な感覚に働き掛けるために、個に応じた教材・教具（I C T 機器等）を効果的に活用する。 ○自身に関わる人に関心をもち、働き掛けを受け止めたりそれに応じたりする経験を積めるように支援する。 ○病院の療法士や外部専門家等と連携し、支援の方法等について情報交換をするなど、教員の専門性の向上を図る。
2	学校生活 重点 2	目標	○児童生徒が自らの健康課題や病気を正しく理解し、課題解決に向けて主体的に行動できる力を育成する。 ○健康に関する意識を高め、基本的生活習慣を身に付け、健康の保持・増進を図る。 ○安全な学校生活および病院生活の実現を目指す。
		計画	○病状の多様化・重度化に対応するため、病院と連携し、学習活動の工夫と病状理解の支援を行う。 ○保健指導や学校保健委員会を通じて健康に関する知識を提供し、望ましい生活習慣の定着を促す。 <u>○緊急時対応マニュアルの整備と訓練を行い、教職員の共通理解と対応力を高める。</u>
3	進路支援 教育相談	目標	○病弱特別支援教育のセンター校としての役割を果たす。 ○児童生徒が自立と社会参加を目指し、主体的に進路選択できる能力と態度を育成する。 ○卒業・転学後も継続したフォローアップを行い、家庭や転出先と連携を図る。
		計画	○学校説明会や教育相談、ホームページ、市町村教育センター等への訪問を通じて、病弱教育への理解啓発を図る。 ○就業体験や卒業生の事例を紹介し、卒業後の生活を具体的にイメージできるように支援する。 ○卒業・転学後 3 年間のフォローアップ計画に基づき、定期的または必要に応じて連絡や訪問を行う。

4	特別活動	目 標	○学校行事や児童生徒会活動等を通じて、個性の伸長と社会性の育成を図る。 ○異年齢交流を通じて、人と関わることの喜びや主体的に関わろうとする態度を育てる。
		計 画	○病院と連携して児童生徒会活動・委員会活動を進め、規範意識や社会性の育成を促す。 ○レクリエーション大会など異年齢による集団活動を多く設け、児童生徒同士の関わりを促進する。
5	その他 (専門性の向上)	目 標	○「児童生徒の自立と社会参加に向けた支援の在り方～自立活動の指導の充実～」を研究主題とし、学校全体で共同研究を推進する。
		計 画	○令和6～8年度を研究期間とし、今年度は実態把握シートを用いて目標に沿った自立活動を学校生活全体で展開する。 ○障害特性や病状への理解を深めるため、外部講師による研修を実施する。 ○校内研究では教職員のニーズに応じた内容を取り上げ、見通しのある計画と意見交換しやすい環境づくりに努める。

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和7年度 富山県立ふるさと支援学校アクションプラン - 1 -	
重点項目	学習活動(中学部)
重点課題	教員のオンライン授業スキルの向上
現 状	○ 中学部に在籍している生徒の中には体調の変化や周囲の状況によって登校できない時間や期間のある生徒がいる。そのような生徒の学習機会を保障するためにオンライン授業の必要性がある。 ○ オンライン授業の経験のある教員が少なく、「スキルや知識を身に付けたい」「分かりやすい授業や課題の提示などができるようになりたい」と望んでいる教員が多くいる。
達成目標	○ オンライン授業についての研修の実施（年5回以上）
方 策	○ オンライン授業についての研修を行う。（つなぎ方、より分かりやすく伝える手立てや課題提示の仕方、課題のやり取りなど） ○ 模擬授業を通して教員同士で意見を交換したり、課題点を検討したりする。

（評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった）

令和7年度 富山県立ふるさと支援学校アクションプラン - 2 -	
重点項目	学校生活（生活支援部）
重点課題	緊急対応マニュアルの見直し、新規作成と訓練の実施
現 状	○ 現在の緊急時対応マニュアルが複数ページにわたり、内容が複雑で、緊急時に誰が何をすべきか分かりづらい。 ○ 緊急搬送時のマニュアルはあるが、富山病院ですぐに受診できるため活用されていない。他病院に緊急搬送するマニュアルは作成されておらず、緊急搬送の訓練も行っていない。
達成目標	○ 緊急時対応マニュアルの見直し、及び新規作成に取り組む。 ○ 地震や火災の避難訓練、緊急時対応訓練を年3回以上実施し、その都度マニュアルの改善を行う。
方 策	○ 地震・火災などの緊急時対応マニュアル及び熱中症緊急対応を整理・見直すとともに、傷病者対応マニュアルを新たに作成する。 ○ マニュアルの見直し・新規作成後、教職員への周知を図り、避難訓練及び緊急時対応訓練を年3回以上実施する。 ○ 訓練後には、行動の流れやマニュアルの使いやすさなどの意見を収集・分析し、次の改善に反映する。

（評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった）